

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

新2002年12月28日

29号

「地域で生きる障害者を支える会」 増

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL045-562-3600

FAX045-562-5991

活動が会員の生きがいにもなるような会に・・・

来年も楽しく活動を！！

街のそこそこにポインセチアの深いビロードのような赤や、シクラメンの鉢植えが美しく飾られる頃となりました。ひところのようにジングルベルの音は賑やかではなくなりましたがその分、家庭の門口や庭先にまでイルミネーションが飾られ年々華やかになっていきます。この季節、いろいろなクリスマスの集まりに、障害者と共に招かれますが、どこでも暖かく思いやりにあふれていて、心の温まるのを覚えます。

しかし一方で、まだまだ理解されていない場面に出会う事も多く、社会全体での成熟の難しさを痛感させられます。私たちの地道な日常の生活が、やがて日本の差別のない社会通念を育てる事につながるよう心掛けたいところです。



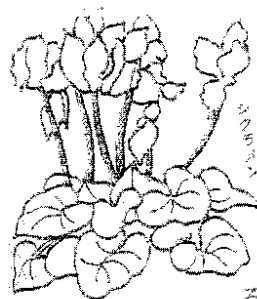
「支える会」の活動年度は、4月から3月までののですが、この12月の声を聞くと自然と一年を振り返り「私たちの活動はどうだったのか・・・」と反省させられます。

ずっと心に掛かってきた事の一つは、この会の活動を、会員の一人一人が自分達の活動だと感じ、どのようなところで自分が関わっているのかという事を、どう実感していただけるかという事です。

これから作っていくグループホーム設立の準備、関わっていく職員の養成、そのための資金作り、広く支援を求め、重度障害者に対する理解を求めていくための広報活動など・・・

仲間作りも、会の拡大や成長も活動を通して初めて実現する事だと思います。

たくさんの会員・賛助会員の皆さんが、「自分の会」だと実感していただくために、この広報紙「たわわ」がお役に立てるよう、また会員相互の情報交換などもできるようにしていきたいと思っています。編集委員一同がんばりますので、今後ともご協力をお願い致します。



楽しくボランティア

岩永美智彦

よつばに伺うことになったのは、たまたま会社が、介護タクシーを始めるということで、ホームヘルパーの講習会を受けるということから、めぐりめぐって偶然に始まりました。

講習会でNEXTの人と知り合い、送迎のボランティアとして伺い、その後、某職員の方の勤めで、中のほうも手伝うようになりました。

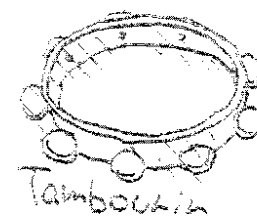
それまでは、会社と家の往復で、仕事をしているか、寝ているか、合間に起きて食事をしているか、ほとんどそんな生活でした。たいした目標もなく、淡々と一日を過ごしていました。

途中忙しくなり伺うことができない時期もあったのですが、皮肉なことに、体調を崩して、NEXTをやめることになったため、また、よつばに復活することとなりました。最近、マイペースで参加させていただいているので、あまりお役に立っているとは思えないのですが、本当にいろいろな経験をさせていただいて、ありがたく思っています。

今では、もし別の職業に就くのだったら、介護の仕事もありかな、とも思っています。仕事となると大変なのでしょうが・・・。

これからも私のできる範囲内で、楽しくお手伝いをさせていただきます。よろしくお願いします

日常が好き



いっしょに「よつば」で音楽をされていて思うことは、職員やボランティアさんたちが、いつも自然体でいるということです。楽器を使うときにも、それを無理にさせようとはせず、メンバーを何気なくサポートし、身体の動きのもとである彼らの気持ちを、第一にしているという姿勢が伝わってきます。

私も、みんなの気持ちが前向きにふくらむよう、その時、その場の空気、偶然性を大事にしながら、音楽という媒介を通して、ふれ合うようにしています。

また、メンバーの一人一人と、もっとじっくり向き合い、かつ彼らがリフレッシュして過ごせる時間が持てたらと、我が家によく来ていただいています。これからもこの日常性を大切にしていきたいと考えています。

赤瀬 福子

めがねの声



私は、1年半ぐらい 前までリハビリセンターで 6か月に一度歯の検査をしていました。いつも検査の時は、ほとんど問題もなく、歯石をちよっと取る事がある程度で終わりました。

リハビリセンターの決まりで町の 歯医者さんに行くことになって、さっそく困ったことになりました。

私が 重い障害者のためか、ほんのすこしずつしか見てももらえせん。それで何度も通って「少しづつ歯石を取りましょう」と言われて「舌の訓練もしよう」と言うことになりました。

私と母は、少し心配になったので、以前教えていただいたリハビリセンターの言語の先生に相談しました。

先生は専門の先生を紹介して 下さったので、大学病院に行きました。

病院では舌やあごの動きなどを 見て下さいました。私の 場合障害が重く、舌を動かす訓練は、あまり意味がないことがわかりました。

木のスプーンで 舌をおさえて、反発する力をつけたり、まるめられるようにしたり、つばを飲んだりしてのどの筋肉をつけることぐらいの状態だそうです。

「よく話したり、笑ってアゴが 開くようにすることね」と言われました。

だまって口を閉じたままにしていると アゴの 関節がかたくなると言われて びっくりしました。

よつばの音も、毎日楽しくしたり、声を出したりするのが 大切なんだとわかりました。

私は のどに筋肉があるなんて、それも使わないと弱くなるなんてはじめて聞いて おどろきました。

大原友子

ご入会・ご継続ありがとうございます。

(敬称略)

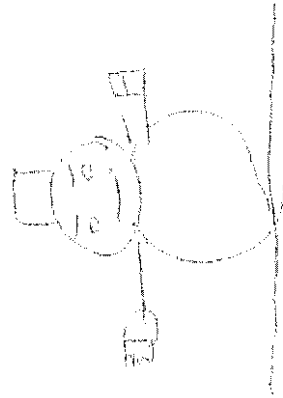
《賛助会員》 平等 志成 (継続)

平等 知成 (継続)

・・・現在の会員数・・・

会員 19名 賛助会員 (個人) : 12名

賛助会員 (団体) : 4団体



え・福田次郎

今月のよつばホーム

初めまして。10月1日より、よつばホーム非常勤職員として勤務しております。
『鈴木仁市(すずきじんいち)』と申します。では、簡単にプロフィールからです。

Q1. 生年月日は?(少し選回しに・・・)

A. 私の生まれた年の大きな出来事は

- ・日本レコード大賞 ちあきなおみ『喝采』
- ・上野動物園に中国から、パンダのランランとカンカンが来日。
- ・札幌冬季オリンピックビクトリア開催 ・沖縄本土復帰 ・浅間山荘事件

Q2. 趣味は?

A. サッカー (観戦するのも好き)

- ・格闘技観戦 (特に新日本プロレス)
- ・ドライブ (年間 20,000 km 以上走ること・・・)
- ・ドライブに行くこと (ロック系)
- ・旅行 ・読書 ・スキー ・プロ野球観戦

Q3. 性格は?

A. ・忘れっぽい

- ・良く言えばおおらか、悪く言えばおおざっぱ。
- ・のんびり屋

10月1日より勤務していますが、これまで『福祉』とは、とても遠い仕事をしてきました。主なところで、ノートパソコン・レーザープリンター・銀行端末機に関する Manufacturing Engineer/Production Engineer/Development Engineer として約10年勤務してきました。仕事の内容は、製品トラブルを未然に防ぐ為の方策を考えたり、試作から量産へ円滑に移行するためのサポート、新技術の開発やカスタマー等、に携わってききましたが、本当に全く違う分野です。チクソ成型時のチクソドロピー現象や、流動性UPの know how、等知っていても、役に立ちません。ある程度の覚悟はありましたが、それ以上に、恥ずかしいくらいに『福祉』に関する知識に乏しかったことを痛感しました。(今でもそうですが、特に当初は。)

以前の私は『グループホーム』の存在を殆ど感じていませんでしたが、この短い間で、『グループホーム』の良さが少しずつ見えってきました。この小規模性が、様々な面でメリットを発揮していると思います。入居者と介護スタッフとの共同生活から家庭的な雰囲気を生み出し、安心と信頼を築き上げていく"理想の環境"の様な気がします。ごく普通の生活の場で、入居者はそれぞれの能力に応じて、無理のない範囲で自分の出来ることをしていただきます。日常生活を共にすることで、入居者同士の交流を通じ、お互いを認識し、馴染みの存在となることで、最適な心のケア・心身の痛みの緩和につながると思います。

そのことから、このグループホームの存在はとても大きな意味を持っている様な気がします。本当に、毎日が勉強といった感じですね。人の目や口の動き、体の温かき、様々なことで気持ちよく過ごしていただきたいと思います。だからこそ、気持ちよく理解出来た時には、自分も嬉しいし、相手も喜んでくれると思います。機械やパソコンが相手の仕事とは違って、人の気持ちには説明書がありません。機械の様に、一度操作を覚えれば良いという仕事では無いので心配ありません。

色々な事を、苦勞したり心配したりしますが、色々考えたり教えて頂いたり、得るものもたくさんあります。見えにくい形での経費値・財産とありますが、この少しづつの財産から、勤務は当初に比べて変化が表れてきています。

少しづつ成長・前進しながら、スタッフの一員として力になつていきたいです。